

令和4年度補正予算(令和5年度実施) 文部科学省委託

教員研修高度化支援 教員研修の高度化に資するモデル開発事業

「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の構築と展開

—「教員研修の協働化」「教員研修の個別最適化」「教員研修の合理化」を図る—

2024(令和6)年3月

国立大学法人 琉球大学 教育学部

様式第 15 (無断複製等禁止の標記)

無断複製等禁止の標記について

委託事業に係る成果報告書の無断複製等の禁止の標記については、次によるものとする。

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、琉球大学が実施した令和4年度教員研修の高度化に資するモデル開発事業の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

はじめに

平素より琉球大学および琉球大学教育学部の教員養成・教育研究活動にご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、本学部は令和5年5月22日付で文部科学省より、令和4年度補正予算・令和5年度実施「教員研修高度化支援 教員研修の高度化に資するモデル開発事業」（委託事業）の採択を受けました。

採択された事業名は「『おきなわ教員研修高度化フォーラム』の構築と展開」で、副題は「『教員研修の協働化』『教員研修の個別最適化』『教員研修の合理化』を図る」というものです。

「フォーラム」とは、いろいろな地域で行われた研修やいろいろなタイプの研修が「集う広場」ということを意味しています。文科省から託された貴重な財源を活用し、離島を含め沖縄県内の各種学校教員の皆さんが集って研修する場を提供したり、教員それぞれのニーズに合わせた研修コンテンツを——場合によっては対面・場合によってはオンライン・場合によってはオンデマンドで——提供したりするなど、これからの教員研修のより良い在り方を探ろうと考えました。

実質的には6月開始で2月までには委託金の執行を終えなければならないというタイトなスケジュールのなか、教育学部教授会を構成する教育学部・教育学研究科（教職大学院）および教職センターの教員、そして事務職員は、多忙な業務の合間を縫って、この事業に取り組んでまいりました。

わたくしどもの最大の願いは、この事業を通して沖縄の教員の皆さんが、自分が必要とする「研修」・望む「研修」に楽しく、かつ効率よく参加していただき、充実した学びを得て、教師・教員として輝いていただきたい、ということです。そして大学だけが突出するのではなく、県内の各教育行政機関およびすべての学校関係者と連携・協働しつつ取り組むことで、沖縄の教育に貢献したいと考えます。

この報告書が、その可能性を展望するものとなっていることを願ってやみません。

令和6年2月吉日

琉球大学教育学部長（令和5年度） 萩野 敦子



目 次

はじめに

第1章 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の目的と概要

- 1. 1. 沖縄県の教員研修に対するこれまでの本学部の関わり／その成果と課題…… 1
- 1. 2. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の目的…… 2
- 1. 3. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の概要…… 2
- 1. 4. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の体制…… 3
- 1. 5. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」ホームページについて…… 3
- 1. 6. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」ロゴマークについて…… 4

第2章 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」各取組について

- 2. 1. 取組A【アドバイザーリースタッフ派遣事業】…… 5
 - 2. 1. 1. 令和5年度（本事業期間内）におけるアドバイザーリースタッフの派遣実績…… 7
 - 2. 1. 2. アドバイザリースタッフより提供された資料のリスト…… 9
- 2. 2. 取組B【各市町村教育委員会等との連携・協働】…… 17
 - 2. 2. 1. 宮古島市教育委員会との連携に基づく、幼児教育および幼小接続に関する研修…… 18
 - 2. 2. 2. 宮古島市教育委員会との連携に基づく、学校司書に関する研修…… 21
 - 2. 2. 3. 宮古島市立教育研究所の長期研究員に対する指導講師派遣事業…… 23
 - 2. 2. 4. 宮古島市立狩俣小学校における総合的な学習の時間カリキュラムづくり…… 25
 - 2. 2. 5. 石垣市教育委員会との連携協定に基づく、「石垣市学力向上フロンティア教育推進事業」の授業づくりの協働…… 27
 - 2. 2. 6. 石垣市教育委員会との連携協定に基づく、管内教職員に対する保護者対応研修…… 30
 - 2. 2. 7. <トータル支援事業の研修プログラム>支援を必要とする多様な子どもの教育実践研修会と早期支援連絡会…… 32
 - 2. 2. 8. 竹富町教育委員会との連携協定に基づく、保幼小連携のための研修会…… 40
 - 2. 2. 9. 竹富町教育委員会との連携協定に基づく、学生と教員の協働による「離島へき地における学習指導のあり方」に関する研修…… 41
 - 2. 2. 10. 竹富町教育委員会との連携協定に基づく、学校司書研修会…… 45
 - 2. 2. 11. 大宜味村の学校を中心とした教育支援の研修教材化…… 47

2.2.12.	連携協定を結ぶ市町村教育研究所 (島尻・宮古島市・石垣市) 研究員の共同ゼミ	51
2.2.13.	八重山地区校長研修会 一八重山教育事務所と琉球大学教育学部の連携による一	57
2.2.14.	離島地区教員に対する附属学校公開研派遣支援事業	62
2.3.	取組C【現職教員を対象とする既存の活動】	65
2.3.1.	教師塾	66
2.3.2.	がちやがちやクラス研究会	70
2.4.	取組D【ICT支援:いいことドクター】	77
2.4.1.	おきなわ ICT 教育未来研修 2DAYS～生成系 AI とクラウドの探究～	78
2.4.2.	レーザー切断技術を用いた IoT ものづくり実践講座	83
2.4.3.	ろう学校での手話デジタルコミュニケーションをサポートするための ICT 環境整備と研修	85
2.4.4.	動画研修コンテンツ「ICT 活用の理論と実践」	88
2.4.5.	学校教育のための ICT サポート活動	90
2.5.	取組E【特別支援教育ケア】	91
2.5.1.	地域に発信する特別支援教育の専門性向上 一特別支援学校のセンター的機能を発揮した地域支援一	93
2.5.2.	自分らしく幸せな人生を歩むために必要な力を育むために ～障がいのある子にもない子にも必要なこと～	101
2.6.	取組F【おきなわ養護教諭ネットワーク】	103
2.6.1.	養護教諭を中心とする“性と生”教育セミナー	104
2.7.	取組G【教育学部集中講義・短期教員研修ドッキング】	109
2.7.1.	小学校プログラミング教育概論 現職教員研修ドッキング	110
2.8.	取組I【研修支援プロジェクト】	115
2.8.1.	〈依頼型〉学校における保護者対応	116
2.8.2.	〈依頼型〉教員向けメンタルヘルス・マネジメント研修 ～仕事のストレスを緩和しウェルビーイングを高めるために～	120
2.8.3.	〈依頼型〉知ろう!考えよう!楽しもう!沖縄県の学校における ダイバーシティ～県内在住外国人保護者と学ぶワークショップ～	123
2.8.4.	〈依頼型〉増加する外国人児童生徒等へ対応できる学校づくり ～ことばと文化の壁を越えるために～	127

2.8.5. 〈申請型〉 2023 年版・保健体育授業学習会 一つながる・つなげる研修を目指して……………	131
2.8.6. 〈申請型〉 義務教育校における防犯対策と外部侵入者への対処法 および防災・減災に向けたケーススタディー……………	132
2.8.7. 〈申請型〉 琉球大学発！地域の特性を活かす架け橋プログラム —保幼小接続に関する研修プログラムの開発—……………	135
2.8.8. 〈申請型〉 沖縄県の教育現場に必要な栽培学知識を提供する 研修コンテンツ作成……………	136
2.8.9. 〈申請型〉 学校で使えるデジタル機器を利用した STEAM 教育 —授業づくり実践講座—……………	138
2.8.10. 〈申請型〉 中学校校内適応指導教室通室生徒の対応に活かす研修： 校内適応指導教室通室生徒の理解と対応、教員間連携……………	142
2.8.11. 〈申請型〉 個別最適化における理科教育のリスキリング講座……………	144
2.8.12. 〈申請型〉 しまくとぅば継承と学校教育 —地域の言語文化を教材とする実践事例を中心に—……………	146
2.8.13. 〈申請型〉 主体的な探究活動と STEAM 教育を核とした 教員研修プログラム「STEAM SEED」……………	148
2.8.14. 〈申請型〉 宮古地区の理科教育の向上 —教員研修にスパイスを—……………	150
2.8.15. 〈申請型〉 沖縄県小中学校理科教員研修会 —今後の日本の理科教育について学ぶ—……………	152
2.8.16. 〈申請型〉 八重山地区の理科教育の向上 —離島研修のハンディを埋める—……………	154
2.8.17. 〈申請型〉 沖縄における優れた「国語」授業の動画集（小・中学校編）	156
2.8.18. 〈申請型〉 母語の言語文化的背景を踏まえた日本語学習支援と 多文化共生教育……………	158
2.8.19. 〈申請型〉 小学校特別支援教室における実際の支援活動を通した 教員と学生との双方向の学びの創造……………	162
2.9. 取組 J【学校教員研修提供システム：けん☆チャン】……………	167
2.9.1. 動画コンテンツの紹介……………	170

第3章 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」事業全体に関わる活動

3.1. キックオフに向けた教授会 F D……………	207
3.2. 県内教育行政機関等への事業説明……………	209
3.3. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」キックオフイベント……………	210
3.4. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」成果報告会……………	214

謝辞

第1章

「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の 目的と概要

1.1. 沖縄県の教員研修に対するこれまでの本学部の関わり／その成果と課題

琉球大学教育学部（本報告書では、教育学部教授会を構成する教育学研究科と教職センターを含む）は、沖縄県における唯一の国立大学・国立大学法人の教員養成学部として、附属の教育実践総合センター（2019年度から大学附属教職センターに改組）とともに、沖縄県の学校教育現場に教育研究の成果を還元してきた。その使命は、2005年度から各市町村教育委員会と結んでいる連携協定および2012年度に開始した「アドバイザースタッフ派遣事業」により、本学部教員において日常化している。

本学部は、2005年度に竹富町教育委員会と連携協定を結んで以来、石垣島市教育委員会・宜野湾市教育委員会・中城村教育委員会・那覇市教育委員会・南部広域行政組合教育委員会・宮古島市教育委員会（以上、五十音順）と連携協定を締結し、ほか大宜味村教育委員会とも長い協働の経験を持っている。これらの地域とは、日常的に教育研究活動をサポートし、また本学部・大学院の学生が実習系の授業でフィールドとさせていただくなど、互惠関係にある。

また「アドバイザースタッフ派遣事業」は、毎年度始めに県内の教育行政機関と全ての小・中・高等学校および特別支援学校にパンフレット（派遣教員とその専門分野を記載）を配布し、交通費以外は一切の経費なしで各所・各学校での指導助言や講話に出向くという形で行っている。おおよそ年間300～400件の派遣依頼に添えており、県内の学校教育に定着して久しい。

この2つの事業は、沖縄県における教員研修に対して一定の貢献を果たしてきたという自負がある一方で、それらによって得られたはずの成果は、個別の地域・学校・教員と派遣された大学教員との間で共有されるにとどまり、「教師・教員間での協働的な学び」を実現するに至っていないという課題があるのも否めないところであった。

折しも学校教育においては、令和4年に教員免許更新制が廃止され、今後は国や県が整備する教員研修履歴システムを土台に、教員一人一人が自分にとって最適な教員研修の在り方を探っていくことが求められる。すなわち、多様な研修ツール・研修機会が必要とされており、本学部としてもそのツールの開発や機会の提供に努力していかなければならない。また、本県は慢性的な教師・教員不足に苦しんでおり、その状況は現場教員から「学び続ける」意欲やゆとりを奪っている。少しでも負担を軽減しながら、やりがいを感じられるような教員研修を探ることもまた、本学部の責務である。

以上のような背景と考えのもと、本学部は令和4年度補正予算による文部科学省委託事業「教員研修高度化支援 教員の高度化に資するモデル開発事業」に、

「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の構築と展開
—「教員研修の協働化」「教員研修の個別最適化」「教員研修の合理化」を図る—

という事業名で応募し、採択を受けるに至った。

1.2. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の目的

上述した本学部の成果と課題、そして今後の教員研修において求められる役割を踏まえ、本事業は、「教員研修の協働化・個別最適化・合理化」を通して、全県的に教員の力量を高めることを目指す。研修の協働化と合理化は「ゆとり」を生み、研修の個別最適化は「意欲」を喚起する。つまり「協働化・個別最適化・合理化」は、教員の働き方や働きがいを改善し教員不足問題にも資するものと考えからである。

1.3. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の概要

目的を果たすため、本事業では、研修コンテンツ（教員が集う学びの場および研修動画）を提供・発信し、その研修成果を共有するリアルかつバーチャルな空間（広場）を構築する。具体的に取り組むのは、大きく以下の3点である。

- ①各地域・各学校・各教員が実施する研修内容や成果を全県的に共有し、研修の協働性を高める。
- ②大学が多彩な研修コンテンツを提供・公開・共有することで、県内各教員が個別最適な研修内容を選択・実施できるようにする。
- ③ネット上で受講→課題提出→修了証受理が可能なシステムを構築するなど、研修の（質を落とさずに）合理化を図る。

この3点に取り組むつつ、沖縄県教育委員会や沖縄県立総合教育センター等の諸機関と調整して、本学部が提供・発信する研修コンテンツ県の教員研修履歴システムに連携させていく。次頁の図は、本フォーラムの全体像を示すポンチ絵である。

このポンチ絵にあるように、当初は取組Aから取組Jまでの10の企画を構想していたが、このうち取組Hについては、基本的にかつての教員免許状更新講習の内容を動画に再現することを目論んでいたものの準備が整わず、実現させることがかなわなかった。しかし、逆に言えばこの短期間の間に、これだけの多様な取組を手

掛けることができたとも言える。その多様さについては、本報告書を流し読みしていただくだけでも伝わるだろう。



1.4. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の体制

単年度、加えて実質的には8～9か月という短期間の事業であるため、各取組・プロジェクトの運営は申請内容を考えた教育学部運営会議（執行部）がそのまま担うこととした。

事務に関しては、教育学部事務長と学部総務係のほか、教員免許状更新講習係の唯一の係員・学部付技術職員（特に ICT 関係の業務を担っている）・学部で独自に採用している教育研究支援室員の3名に加えて、本事業のための短期雇用職員2名を採用し、この5名が「教員研修開発事業部」チームを構成して各業務にあたった。

1.5. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」ホームページについて

委託事業は単年度だが、「おきなわ教員研修高度化フォーラム」は今後、沖縄県の教員研修を支える事業として長く続ける必要がある。教員研修に関わるさまざまな資料も、学校教員が広くアクセスできる形で留めておきたい。そこで、(株)サビラ様に、「おきなわ教員研修高度化フォーラム」公式ホームページを作成してもらっている。

現在は掲載するコンテンツを整理中であるため、内部でしかアクセスできないが、近日中に一般公開予定である。[\(https://www.ok3.edu.u-ryukyu.ac.jp/\)](https://www.ok3.edu.u-ryukyu.ac.jp/)

(ホームページトップ画面のイメージ)



また、研修動画については、別に動画専用サイト「オンライン研修システム けん☆ちゃん」を作成することとした。こちらは(株)プラズマ様に委託し、やはり公開に向けて鋭意準備中である。

1.6. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」ロゴマークについて

右が本事業のために作成したロゴマークである。作製を、本学部の美術教育専修卒業生であり県内で活躍するアーティストでもある平良亜弥さんに依頼し、幾つか頂いた候補の中から決定した。

「おきなわ／きょういん／けんしゅう／こうどか」ということで、「O」「K³」をデフォルメした図案であるが、「O」は「聴く耳」に、「K」は「語る口、お喋りする口」にも見える。それらを、土台となる「フォーラム(広場)」の上に乗せている。



なお、色については、琉球大学のシンボルカラーである「琉大黄金(くがに)」と「琉大ブルー」に加えて、沖縄県章に使用されている「赤」系統色と沖縄のイメージ色調査で多かったという「緑」系統色から、ポップな色合いを選んだ。

第2章

「おきなわ教員研修高度化フォーラム」

各取組について

2.1. 取組A【アドバイザースタッフ派遣事業】

第1章で言及したように、「アドバイザースタッフ派遣事業」は、本学部の既存の活動だが、「おきなわ教員研修高度化フォーラム」（以下「本フォーラム」と略称する）における取組にも位置づけた。

まずは、「アドバイザースタッフ派遣事業」について、若干の説明をしておく。本事業は2012年度より、当時本学部が文部科学省から補助金を得て実施していた「21世紀おきなわ子ども教育フォーラム」における取組の一環として始めたものである。大学と地域社会の連携を目指し、大学が有する研究活動の成果を地域に還元することを目的としており、各種学校の校内研修をはじめ、教育委員会や教育研究所等で実施される研修会等に教育学部・教育学研究科・教職センターの教員を講師として派遣するという取組である。

⇒参照：<https://www.edu.u-ryukyu.ac.jp/educator/advisory/>

本事業では毎年度始めに県内の教育行政機関と全ての小・中・高等学校および特別支援学校にパンフレット（派遣教員とその専門分野を記載）を配布して周知を図っている。パンフレットは学部ホームページでも見られ、ホームページからは簡単に派遣申込フォームにアクセスできる仕組みとなっている。

(パンフレットの一部)

琉球大学教育学部・教育学研究科・教職センター
2023年度
アドバイザースタッフ派遣事業

アドバイザースタッフ派遣事業とは？
アドバイザースタッフ派遣事業は、琉球大学教育学部・教育学研究科・教職センターが大学と地域社会の連携を目指し、大学が有する研究活動の成果を地域に還元することを目的として実施するものです。学校の校内研修をはじめ、教育委員会や教育研究所等で実施される研修会等に琉球大学教育学部・教育学研究科・教職センターの教員を講師として派遣いたします。また、子どもをめぐっての教育相談等についても対応いたします。お気軽にご相談ください。

アドバイザースタッフ派遣の申込は
1. 派遣教員と日程等を直接調整、調整後に教育学部教育研究支援室へ連絡
2. 教育学部教育研究支援室へ連絡（派遣教員と未調整）
上記1.、2.のいずれかをお願いします。
お申し込みの際は「アドバイザースタッフ派遣」について（申込種類名）としてご連絡ください。
①WEB上の申込フォームから申込。または申込書をダウンロードして教育研究支援室へメールかFAXで提出してください。
②教育研究支援室が申込内容を確認しメール等でご連絡を申し上げます。
※教育学部のホームページに「申込フォーム」を掲載しておりますので、適宜ご利用ください。

派遣が決定しましたら
・派遣教員用と所属機関の派遣依頼の公文書（印信省略可）をメールまたはFAXでご提出お願いいたします。

お問い合わせ
・派遣先は、派遣先内の教育関係者としていただきます。
・派遣教員の派遣希望は必要ありません。
・密着して交通費を負担していただいております。ご協力よろしくお願いたします。
・派遣にあたっては大学教員の講義や出張の都合もあるため、早めの（遅くとも派遣希望の2週間前までに）お申し込みをお願いします。お申し込み後、日程や具体的な内容等について調整を行います。
・各教員の都合や日程によっては、ご希望にお応えできない場合がございますので、ご了承ください。ご不明な点がございましたら、お気軽にご連絡ください。

詳しくは [琉球大学教育学部 アドバイザリースタッフ](#)

琉球大学教育学部 教育研究支援室
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地（地域国際学部センター1階）
電話 ☎FAX098-9395-8373 E-mail visiten@edu.u-ryukyu.ac.jp

学校支援・共同研究・授業づくり私たちがお手伝いします!!

教員名	所属	専門分野
1. 山口 剛史	ryuim@edu.u-ryukyu.ac.jp	社会科の授業づくり、教材づくり、実践や研究授業などに関する指導、履修への支援教育に関する総合学習、学びあいの中心となる授業の作り方。
2. 高野 純	tedhim@edu.u-ryukyu.ac.jp	志願者教育及び地域課題解決のグループ学習対話型学習の授業づくり、SixEについての学習指導のあり方（校内、校外）
3. 前村 佳実	y_sai@edu.u-ryukyu.ac.jp	小中級における基礎的なものづくりを軸とした体験学習の場と非正規教育の整備
4. 北山 純	ktm@edu.u-ryukyu.ac.jp	社会科の授業づくり、教材作り、評価などをテーマとした学習に関する相談や研修、日本語を母語としない児童への教育支援に関する支援等
5. 白根 高志	shira@edu.u-ryukyu.ac.jp	生活科、社会科、総合的な学習の時間の教材研究、授業づくり
6. 吉田 安良真	whet@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業のための基礎技術（実験、実験準備、指導、教材研究）
7. 渡辺 実	hikaw@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科・生物科の生物分野に関する実験や観察の誘導、授業づくり
8. 渡辺 実	hikaw@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）や生物教材研究などに関する相談
9. 野村 実	tsuk@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）や生物教材研究などに関する相談
10. 橋本 浩典	y_w@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）や生物教材研究などに関する相談
11. 橋本 浩典	hida@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
12. 橋本 浩典	hida@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
13. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
14. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
15. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
16. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
17. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
18. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
19. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
20. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
21. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
22. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
23. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
24. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
25. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
26. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
27. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
28. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
29. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談
30. 津田 誠	shinda@edu.u-ryukyu.ac.jp	理科授業（生物分野）に関する野外観察の誘導の補助や、実験準備などに関する相談

着実な活動はあつというまに県内に浸透し、下記のように開始2年目には飛躍的に実績が伸び、以後、安定的に多くの派遣依頼をいただいている。2020年度はコロナ禍で件数が大幅に減少したが、翌年にはオンラインによる講話等が定着して件数も回復し、再び安定的に活動できている。

(いずれも年度内の総派遣件数)

2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
55件	222件	341件	284件	267件	347件	394件	411件	251件	336件	402件

このように、本事業は県内で一定の評価を得て久しいが、文部科学省の2019年「国立教員養成大学・学部，大学院，附属学校の改革に関する取組状況について（4）大学教員に関する好事例」にも認定されている。下図は同省ホームページに公開されているポンチ絵である。

【琉球大学】アドバイザースタッフ派遣事業

- ・アドバイザースタッフ派遣事業は、特に教育の支援が行き届きにくい沖縄県の離島やへき地（石垣市，宮古島市，竹富町，大宜味村，その他）等に本学の教員（昨年度実績 80人）を派遣（昨年度実績 347回）し、教育をめぐる諸課題等について、地元の教育委員会と連携しながら、各学校等の教育活動を支援する事業である。また、それらの活動を通じて得られた知見を大学の授業に反映させ、学校教育教員養成機能を高めている。石垣市においては本事業を通して得られた知見の一端として、小学校での共同研究の成果が出版されたり、大宜味村においては地域住民の活動理解と支援によって新たな活動計画が策定されたりするなど、地域の生涯学習の充実にもつなげている。

沖縄県の教育課題の共有

市町村 教委との連携 教育委員会 三者の連携

大学 学校

ところで、これまで各種学校の校内研修の指導助言や教育事務所・教育研究所等が主催する講演・講話のために「スタッフ」派遣された各教員の実績や成果は、1枚の簡単な書面で報告されるのみであった。各教員は派遣先の要望に応じて、相応の資料を準備するが、その資料も共有されることはなかった。その「もったいない」状態を解消し、当該教員の了解のもと、使用された資料等は本フォーラムにおいて保管・保存し、事業HP等で公開していくこととした。

以下に、まずは、今年度の（1月末日時点での）派遣実績を資料として提示する。そのあとに、「スタッフ」派遣された教員が共有・公開を可として本フォーラムに提供した資料の一部を紹介する。

2.1.1. 令和5年度（本事業期間内）におけるアドバイザースタッフの派遣実績

本報告書の完成に間に合う1月までの実績であるが、中間報告的にまとめておくこととする。（なお、3月末日までの最終的な実績については、本学部ホームページや「おきなわ教員研修高度化フォーラム」ホームページにて後日公表する。）

今年度のアドバイザースタッフは教育学部教員65名、教職大学院教員12名、教職センター教員5名、他学部教員3名の合計85名であった。教育学部・教職大学院・教職センターの86%の教員が登録をしている。今年度1月末現在の派遣回数は349回（昨年度は402回、昨年度との比は約86%だが、あと2か月で昨年度並みに近づくと予想される）となった。派遣概要は以下のとおりである。

<教科・領域別実績>

総計 349 件（2024 年 1 月現在）

教科（領域）	2022 年度件数	2023 年度件数
国語科	123	93
算数・数学科	2	2
社会科・生活科	42	39
理科・生活科	5	1
英語科	7	10
音楽科	4	12
図画工作・美術科	0	4
体育科	5	4
技術科	1	10
家庭科	2	9
道德教育	7	6
子ども理解・生徒指導	55	58
教育学	0	0
特別支援教育	50	23
図書館教育・読書活動	7	5
授業づくり・校内研修等	85	70
日本語支援教育	3	1
食育・栄養学	2	2
生涯健康・スポーツ	2	0
合計	402	349

＜地域ごとの実績＞

総計 349 件（2024 年 1 月現在）

地区	市町村	2022 年度件数	2023 年度件数	地区	市町村	2022 年度件数	2023 年度件数
国頭	名護市	1	0	那覇	那覇市	60	38
	金武町	1	1		浦添市	5	17
	国頭村	0	1		南大東村	0	1
	大宜味村	0	0	島尻	糸満市	14	9
	宜野座村	1	0		豊見城市	27	11
	伊江村	5	3		南城市	10	4
	伊平屋村	0	1		八重瀬町	11	10
中頭	うるま市	5	4		南風原町	3	3
	沖縄市	29	26		与那原町	0	1
	宜野湾市	36	21		渡嘉敷村	7	6
	嘉手納町	2	7	粟国村	0	1	
	北谷町	12	11	渡名喜村	3	2	
	西原町	10	15	南部広域 行政組合	8	3	
	恩納村	10	17	島尻地区 その他	1	0	
宮古	読谷村	11	9	宮古島市	15	9	
	北中城村	4	9	八重山	石垣市	32	26
	中城村	15	21		竹富町	3	2
県	沖縄県	44	46	その他	その他	17	14
合計						402	349

＜派遣機関別実績＞

機 関		認定こ ども園	幼稚園	小学校	中学校	小中 学校	高等 学校	特別支 援学校	その他
2022 年度	件数	5	1	233	43	10	11	1	98
	割合(%)	1.3 %	0.2 %	58.0 %	10.7 %	2.5 %	2.7 %	0.2 %	24.4 %
2023 年度	件数	1	0	207	48	4	8	1	80
	割合(%)	0.3 %	0 %	59.3 %	13.8 %	1.1 %	2.3 %	0.3 %	22.9 %

※その他は、教育委員会・教育研究所・教育事務所等

2.1.2. アドバイザリースタッフより提供された資料のリスト

今回の取組においては、いまだ教員への周知が行きわたらず資料提供は一部の教員に限られたが、それでも6教員から下記39件の資料が提供された。

令和5年度文部科学省委託事業【取組A：アドバイザリースタッフ派遣事業】 資料一覧		
提供者	No	タイトル
永田 聖子	1	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ～国語科「読むこと」説明的文章の指導を通して～
永田 聖子	2	ともに学び合い、自分の思いや考えを表現する子の育成 ～聴き合いつなぎ、考えを深める対話を通して～
永田 聖子	3	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ～児童に問いが生まれ、授業の質を上げる“高良小3S”～
永田 聖子	4	主体的に学ぶ真和志っ子の育成 ～「自学自習」の確立と「個別最適な学び」を通して～
永田 聖子	5	対話でつながり合う教室 ～子ども一人ひとりに居場所感があり、夢中になれる授業づくり～
永田 聖子	6-1	筋道を立てて自分の考えを表現することができる児童の育成 ～国語科(説明的な文章)における「読むこと」の対話的な学びを取り入れた授業を通して～
永田 聖子	6-2	筋道を立てて自分の考えを表現することができる児童の育成 ～国語科(説明的な文章)における「読むこと」の対話的な学びを取り入れた授業を通して～
永田 聖子	6-3	筋道を立てて自分の考えを表現することができる児童の育成 ～国語科(説明的な文章)における「読むこと」の対話的な学びを取り入れた授業を通して～
永田 聖子	6-4	筋道を立てて自分の考えを表現することができる児童の育成 ～国語科(説明的な文章)における「読むこと」の対話的な学びを取り入れた授業を通して～
永田 聖子	7	自立した学習者の育成 ～かふやみを取り入れた授業実践を通して～
永田 聖子	8	説明的な文章において、論理的に考え自立した読みができる児童の育成 ～対話的な活動と可視化したノート活用の充実を通して～
白尾 裕志	9-1	提案授業：国語「個別最適な学び・協働的な学びの一体的推進」
白尾 裕志	9-2	個別最適な学びの実現と単元デザイン
白尾 裕志	10-1	「主体的に活動に取り組む児童の育成」 ～特別活動において、話し合い活動を取り入れた学級づくりを通して～
白尾 裕志	10-2	「主体的に活動に取り組む児童の育成」 ～特別活動において、話し合い活動を取り入れた学級づくりを通して～
白尾 裕志	11-1	考え、議論する道徳の授業づくりについて 令和5年度第3回保幼小中合同研修会(伊江村)
白尾 裕志	11-2	考え、議論する道徳の授業づくりについて 令和5年度第3回保幼小中合同研修会(伊江村)
白尾 裕志	12-1	主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成 ～情報活用能力を活かした学習活動を通して～
白尾 裕志	12-2	主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成 ～情報活用能力を活かした学習活動を通して～

令和5年度文部科学省委託事業【取組A：アドバイザースタッフ派遣事業】 資料一覧

白尾 裕志	12-3	主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成 ～情報活用能力を活かした授業づくりを通して～
白尾 裕志	12-4	主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成 ～情報活用能力を活かした授業づくりを通して～
白尾 裕志	13	ESD教育について ～ESD（持続可能な開発のための教育）と授業づくりを中心に～
白尾 裕志	14	社会科の授業づくり／評価の進め方／社会的な見方・考え方について
白尾 裕志	15	主体的に学ぶ児童の育成・教科等の非認知能力の育成方法
白尾 裕志	16-1	ESD教育の視点を取り入れた生活科と総合的な学習の時間の学習
白尾 裕志	16-2	令和5年度沖縄県教育委員会研究指定校 (SDGs 達成のための教育実践)
白尾 裕志	17	「個別最適な学び・協働的な学びの一体的推進」について
白尾 裕志	18	「主体的・対話的で深い学び」について ～「個別最適な学び」・「主体的に学習に取り組む態度」の評価と併せて～
白尾 裕志	19	「個別最適な学び・協働的な学び」を取り入れた授業づくり
比嘉 俊	20	県立高等学校中堅研 ーカリキュラム・マネジメントー
比嘉 俊	21	宮里中校内研授業
比嘉 俊	22-1	学習評価（興南中学校その1）
比嘉 俊	22-2	学習評価（興南中学校その2）
比嘉 俊	23	学習評価（昭和薬科大学附属高校中学校）
比嘉 俊	24	学習評価（島尻教育事務所）
上地 完治	25	学びのある道徳授業づくり
上地 完治	26	道徳科授業での学びをどう捉えるか 令和5年度中城村校種間交流「授業研究会」
島袋 純	27	主権者教育について
仲間 伸憲	28	芭蕉紙づくり体験研修

このリストを本フォーラムのホームページで公開し、番号をクリックすれば当該資料に飛ぶ仕組みを今後はつくっていきたい。資料を活用して自前で校内研修を行うもよし、資料を提供した教員の派遣を依頼して講師として迎えての校内研修を行うもよし、もちろん個人で学ぶもよしで、今後の教員研修に資すると考える。

次頁以下に、提供された資料の一部を掲載する。

【資料No.1】 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

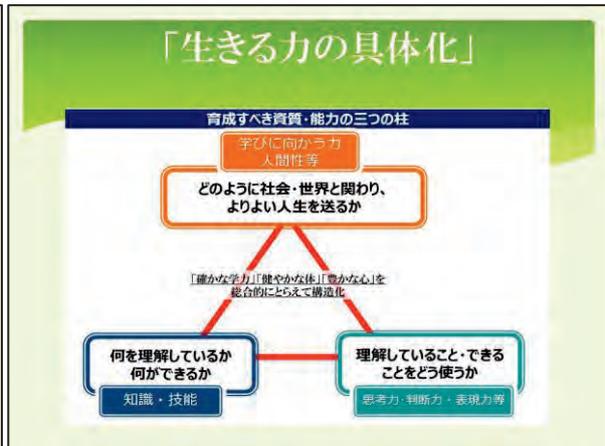
提供者：永田聖子（教職センター 准教授）

※下のスライドは部分的に取り出したものです。

「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた授業改善

～国語科「読むこと」説明的文章の指導を通して～

筑球大学
永田 聖子



学習指導要領改訂のポイント

新しい学習指導要領の考え方 中教審資料 文部科学省

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

3つの資質・能力を育む

何ができるようになるか

カリキュラム・マネジメントを通して

何を学ぶか どのように学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の施設や目標・内容の整理し
指導事項を

主体的
対話的
深い学びで

イフ
の改善

「主体的・対話的で深い学び」の実現
に向けた授業改善の推進

① 1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではない。
単元や題材など内容や時間のまとまりの中で

- 見直し振り返る場面をどこに設定する
- グループなどでの対話の場面をどこに設定する
- 児童生徒が考える場面 } どのように組み立てるの
か教員が教える場面

② 深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要

③ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合
→その確実な習得を図ること

県内の小学校から派遣要請をうけ、校内研修で講師を務めた際の資料。
全72枚ものスライドがあったが、ここではほんの一部を紹介している。
上記のような総論を導入として、途中から下記のような具体的な教材を
例に挙げてのワークショップ・解説を展開した。

では、具体的に
【1年生の説明文】

評価するための言語活動は…

「じどう車ずかんをつくろう」

単元名は…

「じどう車ずかんをつかって
〇〇に〇〇を伝えよう！」

何のために読むのかという必然性
(学ぶ意義)

➡ 単元名がおもしろいといいな！

(例)「学びの文脈」榊山敏郎著2022年8月明治図書
・「聞いてください！4年生のみなさん！」今、地球が
大変です！～『もったいないンジャー』の一員として、
意見文を書いて地球環境問題を発信しよう～
教材名：「グラフや表を用いて書こう」(光村5年)



→ 資料の全体をご覧になりたい方は、こちらから！ →

【資料No.9-2】 個別最適な学びの実現と単元デザイン

提供者：白尾裕志（教職大学院 教授）

※下のスライドは部分的に取り出したものです。

個別最適な学びの実現と単元デザイン
 糸満市立米須小学校 校内研修 2023年7月27日(木)

研究主題
 自ら見通しをもち、自己調整をしながら、自立して学習する児童の育成
 研究副題
 ～「個別最適な学び」に視点をおいた授業改善の工夫を通して（1年次）～

○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会」（国立教育政策研究所、2020）
 ○文部科学省『小学校学習指導要領』（東洋館出版、2018）
 ○文部科学省『小学校学習指導要領 解説社会編』（日本文教出版、2018）
 ○文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』（東洋館出版、2018）
 ○中央教育審議会『令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』
https://www.mext.go.jp/content/10310126-mst_syotai02-00001237_1_3.pdf
 ○NITS 独立行政法人教職員支援機構「学校にICTを活用した学習場面」
https://www.nits.go.jp/materials/intamaterial/files/076_001.pdf（参照日 2023年5月1日）
 ○「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）」（参照日 2023年5月19日）
https://www.mext.go.jp/content/210330-rmxi_kyoibu01_000013731_09.pdf

琉球大学大学院教育学研究科（教職大学院） 白尾裕志

研究主題
 自ら見通しをもち、自己調整をしながら、自立して学習する児童の育成

研究副題
 ～「個別最適な学び」に視点をおいた授業改善の工夫を通して（1年次）～

見通し	単元：学習問題の設定と学習計画の間 授業：学習のめあての後の予想
自己調整	「主体的に学習に取り組む態度」の評価における「観点別評価」（成果物）と「個人内評価」（「振り返り」等）で見取る児童の学習に対する姿勢が表現されたもの
個別最適な学び	教師の「個に応じた指導」によって児童が取り組んだ学習活動

研究主題を単元・授業レベルで見える化（試案）

「自ら見通しをもち」（学習の見通し）

単元の初めの段階	単元の第1時～2時の学習問題の設定時において、学習問題への予想から、どうすれば学習問題を解決できるかの思考を通して、解決のための手立て（方法）の確認とその順番を仮に決めることが「学習の見通し」をもつことであり、言語化したものが「学習計画」になる。
各授業の段階	授業の導入段階での「学習のめあて」の設定時において、「学習めあて」への予想から、どうすれば「学習めあて」を解決（あるいは「めあて」に沿った学習活動）ができるかの思考を通して、解決のための手立て（方法）の確認とその順番を仮に決めることが「学習の見通し」をもつことになる。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関わる「自己調整」

学習指導要領解説「総則」（2018年2月）

主体的に学習に取り組む態度の評価

観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分

① 論述
 ② レポートの作成、発表
 ③ グループでの話し合い（まとめ・発表）
 ④ 作品の制作等

評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価する多様な活動を評価対象

多面的・多角的な評価

個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分

学習の自己調整

振り返り

「振り返り」での記述が学習活動に反映されているかどうかを継続的に評価する

県内の小学校から派遣要請をうけ、校内研修で講師を務めた際の資料。同校の研究主題・研究副題に対する理論研として実施され、主題・副題の価値づけをわかりやすく示す。後半では、「個別最適な学び」「協働的な学び」の具体例や「問題解決的な学習」のモデルについて解説。

問題解決的な学習

学習のめあて
 ↓
 予想と予想の吟味・見通し
 ↓
 個別学習
 タブレットを使ってもよいし、それ以外の資料等も可。
 ↓
 個に応じた指導
 ↓
 個別最適な学び
 個に応じた学習／調査活動／思考を深める学習／表現・制作／家庭学習
 ↓
 ここでグループ学習が入ることもある。

個の実態に応じた指導／興味・関心・こだわりを促す指導

「見方・考え方」を使った相互関係等を問う発問

協働学習
 発表や話し合い
 協働での意見調整
 協働制作
 学校の壁を越えた学習（他校との交流学習等）
 ↓
 学習のまとめ・振り返り

「個別最適な学び」も「協働的な学び」も、最初は、これまでの教育実践に当てはめて考える。

演習：個別最適な学びを実現する単元デザイン

指定された様式・方法で学年

- 前回の復習「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」について（10分）
- 「個別最適な学び」の実現に向けた単元デザイン（110分）
 - 学年単位で取り組み、教科は事前に決めておく。
 - 必要な教科書等を準備する。
 - 決めた教科から2学期以降の単元を選ぶ。
 - 教師用指導書から単元の全体計画を確認する。
 - 提案授業（6/29）の国語「走れ」の単元デザインを基に、単元の全体計画内で、有効的な「個別最適な学び」が実現する可能性のある数時間を選択する。
 - ※「個別最適な学び」は、児童が一人で取り組める学習活動。
 - 5つある「個別学習」の内どの「個別学習」を使うかを明確にする。
 - ⑥の「個別最適な学び」に向かわせる指示や発問等を考える。
 - ⑦の「個別最適な学び」に連続する「協働的な学び」の学習活動を考える。
 - グループ毎に発表する。
 - ※ 発表のポイント
 - 1) 単元全体計画から、その時間を「個別最適な学び」
 - 2) 「個別最適な学び」に向かわせる指示・発問及び教師の指導
 - 3) 「協働的な学び」へのつなぎ方

→ 資料の全体をご覧になりたい方は、こちらから！ →



【資料No.20】 県立高等学校中堅研—カリキュラム・マネジメント—

提供者：比嘉 俊（教職大学院 准教授）

※下のスライドは部分的に取り出したものです。

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

県立高等学校中堅研 —カリキュラム・マネジメント—

2023年7月28日
於 県立総合教育センター

琉球大学 教職大学院
比嘉 俊
higa-t@edu.u-ryukyu.ac.jp

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

なぜカリキュラム・マネジメント

H30告示 学習指導要領

教育課程の編成が学校に委ねられている

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

カリキュラム・マネジメントのまとめ

- ① カリキュラム・マネジメントは各学校、各教員がこれまでやってきたものである。これを意図的・計画的にさらに行う
- ② 教育目標の達成のために行う
- ③ 基本的にはCAPDのサイクルで行う
- ④ カリキュラム・マネジメントには終わりはなく、カリキュラムの修正を続ける
- ⑤ カリキュラム・マネジメントは学校固有の活動

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

でもね……

カリキュラムって何ですか？
教育課程って何ですか？

カリキュラム・マネジメントは取っ付きにくい部分があると思う。日本では学習指導要領に基づき教育課程が編成されているから、教師が教育課程編成への知識や意識が少ないと考える。

研究者の理論においてもカリキュラム論になっており、現場と乖離した研究も多い。

実践現場においては、学校全体のカリキュラム・マネジメントと教科(科目)のカリキュラム・マネジメントの2つが存在する。これらは枠が大きい小さいかの差である。行政文書は前者を扱っている。

沖縄県立総合教育センターからの依頼。前半ではカリキュラム・マネジメント（カリキュラム自体の説明も含む）の必要性や構造等について総論的に解説し、後半ではワークショップ形式でカリキュラムのPDCAサイクルをシミュレーションしたり、具体的事例を紹介したりした。

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

グループワーク 2

カリキュラムの改善(修正)について

- ・どのようなメンバーで改善するか
- ・どのような方法で改善するのか
- ・改善案をどのように残す(記録する)か
- ・改善案をどのような方法で他者に伝えるか(伝える必要はあるのか)

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

教育目標の具現化

- ・カリキュラム・マネジメントの目標は子どもの成長であるが、具体的な学校目標を設定する。
- ・教職員が学校目標を理解する。
- ・目指す資質・能力を目指す子ども像とする

質問: **皆さんの学校の教育目標は何ですか？**

→ 資料の全体をご覧になりたい方は、こちらから！ →



【資料No.25】 学びのある道徳授業づくり

提供者：上地完治（教育学部 教授）

※下の資料は全7枚のうちの1枚目です。

学びのある道徳授業づくり

上地 完治（琉球大学）

1. 教科化以前から道徳授業が抱えていた課題

(1) 道徳授業の質的課題

教師が教える授業 → 考え議論する道徳へ

道徳科の授業では、特定の価値観を児童に押し付けたり、主体性をもたずに言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育の目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人として、また国家・社会の形成者としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育が求めるものである。
 (『小学校解説 道徳編』 p. 16)

道徳授業がめざすもの⇒自律した人間の育成
 正しく自分で判断できる人間を育てる
 ↓
 教師が粘土細工のように成形するのではない

(2) 道徳授業の課題は解消されたのか

※心情道徳はなぜ否定されたのか？

心情を扱うことが問題なのではない
 ↓
学びがないことが道徳授業の深刻な問題点（上地の見解）

- ・わかりきったことを教えていた（常識的なこと、資料を読めばわかること）
- ・教師が望む答えを言わされていた（答えていた）
- ・講や説教の時間となっていた

「学び」＝驚き、発見、疑問、納得、確認などこれまでの知識や考え方に変化が生じる
 こと

※教科化の前も後も、課題は同じ

学びのある道徳授業をつくり出すことが大切

中城村立中城中学校の校内研修に招聘された際の講話資料。
 前半に総論的解説をしたあと、後半では道徳授業の実践例や
 発問の仕方等を紹介した。

→ 資料の全体をご覧になりたい方は、こちらから！→



【資料No.27】 主権者教育について

提供者：島袋 純（教育学部 教授）

※下のスライドは部分的に取り出したものです。

主権者教育について

琉球大学教育学部政治学教授 島袋純 Jun Shimabukuro, PhD.



1993年 琉球大学教育学部政治学助教授 (2007年～教授)
 1998年 エジンバラ大学国際社会科学研究所客員研究員
 2002年 沖縄自治研究会 (市民による自治基本条例案) 創設
 2004年 沖縄県明るい選挙推進協議会長 (~2011年)
 2005年 琉大附属中の市民性教育担当 (~2013年)
 2006年 市民性教育副読本「小さな市民の大きな力私たちのまちづくり」沖縄県選管・明推協 (2005年3月)
 2012年 「私たちがつくる社会」法律文化社2012年 (共著)

専門分野:
 行政学・地方自治論、欧州におけるリージョナリズム (道州制) 及びスコットランドの政治行政、沖縄振興体制・沖縄の政治行政、主権者教育が主たる研究対象
 所属学会: 日本政治学会 (現在理事)、日本平和学会、行政学会、地方自治学会等。
 主な著作: 『「沖縄振興体制」を問う』法律文化社2014年 (単著)
 『沖縄が問う日本の安全保障』岩波書店2015年 (編著)
 『沖縄をめぐる政府間関係』日本行政学会2016年 (共著)
 『沖縄平和論のアジェンダ』法律文化社2018年 (共著)

導入：主権者教育導入の背景と理由



1. 主権者を育成する教育とは

1) 主権者教育、政治教育の実質的禁止
 小中高校における政治教育の排除 文科省通達による実質禁止 (1969年)

2) 政治学における政治教育研究の不在
 大学における政治学の教育内容と政治教育研究

- 「政治学」「政治学概論」等＝米国の「地域権力論争 (エリート論対多元主義)」と「投票行動」分析の理論を紹介、習得が主な内容。
- 大学の政治系科目で、何を教えるかについての議論はあっても、教育方法の議論や研究はほとんどない。政治に参加する能力 (政策形成力、政策判断力、政治的行動力) の習得についての議論も少ない
- 政策形成のため、クラス集団において、話し合いで実際の政治や自治における課題発見、課題探求、解決策についての合意形成を進めていく学習方法は、どの教員にも簡単に導入できるものではない。
- 大学の政治学者が、小中高校の政治教育の研究がそもそもほとんどなかった。また大学の授業でそれを教えることもない。

4) 総務省・文科省の主権者教育



目次	
＜はじめに＞	
未来を担う私たち ～責任ある一歩～	4
＜解説編＞	
第1章 有権者になるということ	6
第2章 選挙の実際	8
第3章 政治の仕組み	20
第4章 年代別投票率と政策	24
第5章 憲法改正国民投票	28
＜実践編＞	
第1章 学習活動を通じて考えたいこと	30
第2章 話し合い、討論の手法	32
・手話の実践 ① ディベートで政策論争をしてみよう	38
・手話の実践 ② 地域課題の見つけ方	44

2017年発行

前半では、主権者教育の導入をめぐる経緯や背景、それが必要とされる根拠、現在行われている主権者教育の実際や実例など、さまざまな角度から総論的に述べている。後半ではジェンダーの問題や沖縄社会が歴史的に抱えてきた問題等を、人権の保障の問題から丁寧に解説している。

3) 守られない女性の権利

夫婦別姓 遠い「世界標準」



変わらぬ司法政治は停滞

沖縄の戦後史の核心 権利への闘争を続ける沖縄

闘いによって、はじめて権利を有する個々人の連帯＝社会が形成。
 社会や国家は最初からあるものではなく権利から作り出される。
 →社会や国家を形成するの意味

⇒ 少数派の問題を、怠慢、能力不足、努力不足等の自己責任の問題にすり替える。人権問題を他の問題にすり替えて攻撃する多数派。

⇒ 多数派の考えを受け入れて、利益を得る社会的地位を得る少数派エリートも出てくる。それを自己正統化するため、ますます権利を主張する同じ少数派に攻撃的になる。

⇒今の「人権」問題の最前線。

主権者教育は、人権と人権保障が
除されない自由な政治的空間の



→ 資料の全体をご覧になりたい方は、こちらから！ →

【資料No.28】 芭蕉紙づくり体験研修

提供者：仲間伸恵（教育学部 准教授）

※下の資料は全7枚のうちの3枚目です。

芭蕉紙をつくる工程		
工程	内容	道具
原料用意	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉を切り倒し、先端部と古い表皮は落として、紙に使う幹（葉鞘）だけに整える。 ・重さを測る 	鎌、ノコギリ 計量器
細断	 <p>芭蕉の幹を扱いやすいサイズに切り分けて、さらに5mm から 1 cm 中程度に細かく刻む</p>	包丁、又はハサミ まな板、タライ
煮熟	 <p>芭蕉の繊維を柔らかくほぐすために、アルカリ溶液で煮る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原料の重さの5%程度のアルカリ剤（セスキソーダ）を用意する。 ・鍋に、細断した原料と計量したセスキソーダを入れて火にかけ、沸騰してから30分ほど煮て、柔らかくなったのを確認して終了。 	ナベ コンロ 攪拌用棒 アルカリ剤 （セスキソーダ）
水洗	 <p>柔らかくなった原料を洗濯ネットに入れて水洗し、アルカリ分を洗い流す。</p>	タライ、 （ザル） 洗濯ネット
叩解 （粉碎）	 <p>ミキサーで細かくほぐして、紙料をつくる。</p>	ミキサー バケツ、カップ ザル、洗濯ネット タライ

「紙とは何か」、紙や和紙の歴史や製法などを解説したうえで、芭蕉紙の歴史や特徴、製法などについて具体的に紹介した。

→ 資料の全体をご覧になりたい方は、こちらから！ →



2.2. 取組B【各市町村教育委員会等との連携・協働】

琉球大学教育学部には常設の委員会として「共同研究推進委員会」が設置されており、附属学校部会と地域連携部会の二部会のもと、教育学研究科（教職大学院）・教職センターとも連携を図りつつ、地域との共同研究および教員養成に関する活動を展開している。そのうち地域連携部会において根幹となっているのが、連携協定を結んでいる市町村教育委員会との連携事業である。締結順にそれらの連携協定を示す。

- ①竹富町教育委員会と教育学部の連携・協力に関する協定（2004年7月締結）
- ②那覇市教育委員会と教育学部の連携・協力に関する協定（2005年5月締結）
【愛称：NARAE ネット】
- ③宮古島市教育委員会と教育学部の連携・協力に関する協定（2007年5月締結）
【愛称：ずみ！ネット】
- ④宜野湾市教育委員会と教育学部の連携・協力に関する協定（2007年6月締結）
【愛称：はごろもネット】
- ⑤石垣市教育委員会と教育学部の連携・協力に関する協定（2010年2月締結）
- ⑥中城村教育委員会と教育学部の連携・協力に関する協定（2012年2月締結）
【愛称：とよむネット】
- ⑦南部広域行政組合教育委員会と教育学部の連携・協力に関する協定（2014年9月締結）
※南部広域行政組合とは、沖縄本島南部とその周辺離島に位置する3市4町7村を含む組織をいう。

ほかに、連携協定は結んでいないが本島北部の大宜味村教育委員会とも長年にわたり協働しており、地域連携部会では大宜味村についても毎年スタッフを配置している。

これらの地域とは、教育に関する調査・研究や学生の教育実習・インターンシップ等に加えて教職員の研修についても連携して活動してきた。その経験を踏まえ、各地域には本フォーラムについても周知し、教員研修に資する新たなプロジェクトを立ち上げたり、可能性を模索したりしてきた。

それでは以下に、本フォーラムにおいて実施された、各教育委員会との活動を紹介していく。基本的に、各活動を展開したスタッフがパワーポイントで作成した報告をそのまま引用している。

2.2.1. 宮古島市教育委員会との連携に基づく、幼児教育および幼少接続に関する研修

取組 B ①

宮古島市教育委員会との連携に基づく、幼児教育および幼小接続に関する研修

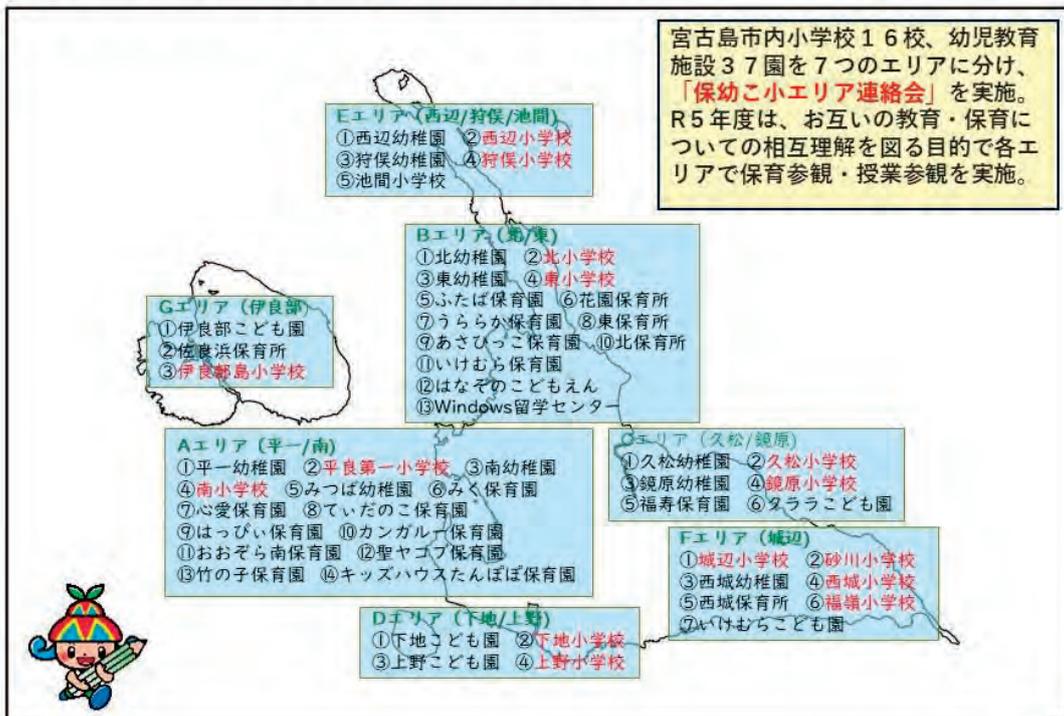
プロジェクトの実施スタッフ

- ・砂川力也（琉球大学教育学部）・宮城利佳子（琉球大学教育学部）
- ・平良美和子（宮古島市教育委員会学校教育課 指導主事）
- ・奥平千里（同課 幼稚園担当主査）
- ・仲地一美、西田千鶴、川田美希（公立幼稚園教諭・R5幼児教育研究協議会研究員）

プロジェクトの概要とねらい

・宮古島市では、「保幼小エリア連絡会」や研修会を開催し円滑な幼小接続に向け取り組んでいる。「保育の質の向上」の推進にあたり、沖縄本島の保育施設の視察や他地区の幼小接続の状況等を共有することで、今後の取り組みに生かしていく。また、幼児教育研究協議会の研究報告会に向け、講師より指導助言をもらい、研究を深める機会とする。

宮古島市幼小接続に向けたエリア連絡会



2.2.1. 宮古島市教育委員会との連携に基づく、幼児教育および幼少接続に関する研修

実習／研修の概要（スケジュール）

月日	実施内容
研修前	委員会・研究員で具体的内容や日程について検討
9月5日(火)	講師（宮城利佳子先生）と教育委員会・研究員3名公開保育内容や視察についてZoom会議
10月5日(木)	講師、研究員、委員会で南城市「知念こども園」保育参観、合同園内研修、南城市行政担当と情報交換
10月26日(木)	講師を宮古島市に招聘。 午前：保育参観(西辺幼稚園)、フィードバック 午後：保幼小研修会（5歳児担任、小学校1年担任）
11月28日(木)	宮古地区幼児教育研究協議会 保育参観・指導助言、グループ協議、ドキュメンテーション交換
研修後	振り返り 研修会参加者へのアンケート実施

保幼小全体研修会のアンケートより

◎研修会に参加して「気付いた事」「学んだ事」

【小学校1年担任】

- ・文字表現に頼りすぎ、脱却が必要といった内容に共感し、生活科を中心に他教科と関連し、つなげ、広げていく可能性を感じました。もっともっと工夫や手立ての可能性があるのだと未来への広がりが楽しみになりました

【5歳児担任】

- ・幼稚園から小学校への接続、保育園から幼稚園への接続教諭同士の接続、子どものつぶやきを形にしていくときに、大人が裏方に徹しながら、自然に活動に生かしていく楽しみを確認しました。

プロジェクトの成果

- ・「知念こども園」の視察で、地域文化に合わせる保育について、本市では何ができるか考える機会となった。
- ・5歳児担任・1年担任にとっては、全体研修会で幼児教育・小学校教育について両方の話を聞いたことで、お互いの教育についての理解が進むとともに、実践についても多くのヒントを得る機会となった。

プロジェクトの課題

- ・離島であるため、大学講師等専門の人材を活用できる回数に限りがある。エリアごとの公開保育などできれば定期的に講師にきてもらい、専門的知見からの助言が必要である。

2.2.1. 宮古島市教育委員会との連携に基づく、幼児教育および幼少接続に関する研修

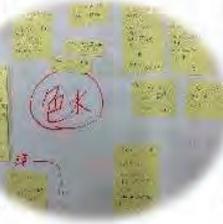



南城市「知念こども園」視察・園内研修へ参加



公立幼稚園教諭研修

本市の公立幼稚園が、主任配置もなく、担任1名で園を運営している状況があるため、各園での園内研修が成り立っていない実態ある。そのため、自主的に公立幼稚園担任が集まり、園内研修を行っている。講師からの助言を元に、「遊びから見える学び」について整理する活動を行った。





**保育後のフィードバック
研究についての相談**



保幼小全体研修会
幼児期の学び屋敷を小学校につなぐ
～幼児期の育ちを踏まえた小学校教育の工夫～



5歳担任・1年担任が一同に会しての研修会となった。





幼児教育研究協議会（公開保育・グループ協議の様子）

2.2.2. 宮古島市教育委員会との連携に基づく、学校司書に関する研修

取組
B
②

宮古島市教育委員会との連携に基づく、 学校司書に関する研修



プロジェクトの実施スタッフ

- ・砂川 力也（琉球大学教育学部）
- ・望月 道浩（琉球大学教育学部）
- ・砂川 誠（宮古島市教育委員会学校教育課指導主事）

プロジェクトの概要とねらい

学校司書は、各学校一人の配置のため、学校を越えて読書活動に関する課題を共有する「学びを広げる場」や「読書指導」について専門家との知見から「学びを深める場」を設定することが必要であり、本研修会を通して、学校司書が、読書活動等への課題や悩みを共有し、解決への手立てについて考えるきっかけとする。

□ 研修の概要

- 1 期日 令和5年9月6日(水) 14:45～16:45 受付14:30～
- 2 場所 宮古島市役所2階大ホール
- 3 連絡会の流れ

児童生徒の自主的、自発的な読書活動や学校図書館の主體的な利用を促すための読書指導について理解を深めるとともに、今後の読書指導の一層の充実に資する。

14:45	はじめの言葉(連絡会の進め方について)																								
14:50	グループ協議1 「児童生徒の姿からエピソードを語り、読書指導や読書活動に関する課題を共有する。」 [グループ編成] <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center; font-size: x-small;"> <tr> <td>* 平一小学校</td> <td>北小学校</td> <td>久松小学校</td> <td>城辺小学校</td> </tr> <tr> <td>* 南小学校</td> <td>鏡原小学校</td> <td>狩俣小学校</td> <td>砂川小学校</td> </tr> <tr> <td>* 栗小学校</td> <td>下地小学校</td> <td>上野小学校</td> <td>福強小学校</td> </tr> <tr> <td>* 結の橋学園</td> <td>池間小中学校</td> <td>西辺小学校</td> <td>西城小学校</td> </tr> <tr> <td>* 平良中学校</td> <td>久松中学校</td> <td>城東中学校</td> <td>西辺中学校</td> </tr> <tr> <td>* 鏡原中学校</td> <td>下地中学校</td> <td>上野中学校</td> <td>狩俣中学校</td> </tr> </table> [グループ協議の進め方] <ol style="list-style-type: none"> ① *の先生が協議を進め、まとめをお願いします。 ② グループ内でそれぞれのエピソードを語り合います。 ③ グループ内で課題を共有し、ホワイトボードにまとめます。 	* 平一小学校	北小学校	久松小学校	城辺小学校	* 南小学校	鏡原小学校	狩俣小学校	砂川小学校	* 栗小学校	下地小学校	上野小学校	福強小学校	* 結の橋学園	池間小中学校	西辺小学校	西城小学校	* 平良中学校	久松中学校	城東中学校	西辺中学校	* 鏡原中学校	下地中学校	上野中学校	狩俣中学校
* 平一小学校	北小学校	久松小学校	城辺小学校																						
* 南小学校	鏡原小学校	狩俣小学校	砂川小学校																						
* 栗小学校	下地小学校	上野小学校	福強小学校																						
* 結の橋学園	池間小中学校	西辺小学校	西城小学校																						
* 平良中学校	久松中学校	城東中学校	西辺中学校																						
* 鏡原中学校	下地中学校	上野中学校	狩俣中学校																						
15:30	全体での課題共有及び助言 琉球大学 教育学部 教授 望月 道浩 氏 ① 各グループの課題を発表します。(グループ内で調整をお願いします) ② グループの発表後、望月教授よりアドバイスをいただきます。																								
16:10	連絡 電子図書館の利用について 宮古島市立図書館																								
16:30	グループ協議2(情報交換) 「2学期の読書指導(読書月間の取組、電子図書館の利用等)について」 ① 各グループで2学期の読書指導や読書活動について情報交換を行う。 ② 望月先生への質問もできます。 ③ 16:45を以て各グループ毎に終了して下さい。 *おわりの言葉を省略します。																								
16:45	連絡会終了(各グループ毎)																								

□ 研修前

一本研修会実施の経緯—
本研修会を実施する前、6月14日(水)に第1回学校司書研修会を実施したところ

「講話の中で『学校図書館に重きをおいている』というお話がありました。しかし、実際には現場で日々接している司書の『学びの場』は、ほとんどありません。もっと研修の機会や、他校司書との交流の場を設けていただけると幸いです。」

等、学校司書の学びを求める声が多くあがり、本研修会の実施となった。

□ 研修後

研修会の感想等について自由記述で提出していただいた。

2.2.2. 宮古島市教育委員会との連携に基づく、学校司書に関する研修

研修後の学校司書アンケートより（自由記述）

- ・研修の機会を頂きありがとうございます。なかなか、司書同士で悩みを話し合う場がないので、今回の研修内容「協議1 エピソードを語り～」は他の学校の現状を知る良い機会になりました。
「なぜ本を読まないのか、借りないのか」に対する望月先生のご助言になるほど！と何度もうなずく自分がいました。適切なアプローチ、声かけを工夫していく重要性を改めて再確認しました。
- ・グループ協議では、共感する内容の話し合いができ、とても有意義な時間になりました。その後の望月先生の講話でも、私たちの悩みに寄り添ったお話が聞けて、何度頷いたか分かりません。大変勉強になりました。もっとこのような研修会が増えてほしいです。今回の研修会のおかげで、充実した図書館運営に向けてのモチベーションが上がりました。ありがとうございます。

プロジェクトの成果

- ・グループでの対話を通して、課題や悩みを共有することで、学校司書の業務へ対する意欲の高まりがみられた。
- ・課題等への専門家の助言を通して、読書指導や読書活動への理解を深めることができた。

プロジェクトの課題

- ・行政が企画、運営する研修会のみではなく、学校司書同士が学校を越えて、読書に関する課題や悩みを共有したり、語り合う主体的なコミュニティの形成。



本を選べない子に対する
アプローチはどうですか？
(読書感想文の本選びを採るときか)

研修の様子

④ → 本を読まない児童
課題 「かりたい本がない」という児童がいる
↓ 対策
・声かけ「本はいっぱいあるから、オススメのコーナーからとか興味のある事柄の本をすすめる」
・友だちがオススメの本を知らせる仕組みが可
・担任の先生から並行読書のオススメをしてもらう
・低学年からの読書の習慣をつける様に

⑤
児童生徒の読書
○成年中 → 学級文庫 図書専門委員 2月/4月/6月
○西四中 → 月 火 8:15~20 期読書 月一各学年 音読 読書している
読書カード 読書カード作成 → 読書カード 借りた本
○又松中 → 図書委員(小)企画 夏に図書委員会 → 読書
月の中 読書数と朝の読書に報告している 読書者に声かけしている
○平良中 → 月~金 8:15 15分朝読 4月 → 移動図書
学級文庫 図書委員を → クラス朝読利用 図書利用時に利用
☆課題
○肉読時間: 生徒が読んでいる時の声かけ
○未読者の声かけ → 担任との連携
○未返却 → 返却の呼びかけ → 読書カード
○マンガを買っている? (館内利用している) → 読書カード
○読書同士の企画 → 先生が主体で実施??

2.2.3. 宮古島市立教育研究所の長期研究員に対する指導講師派遣事業

取組
B
③宮古島市立教育研究所の
長期研究員に対する指導講師派遣事業

プロジェクトの実施スタッフ

- ・砂川力也（琉球大学教育学部）・津田敦子（琉球大学教育学部）
- ・永田聖子（琉球大学教職センター）
- ・平良善信（宮古島市立教育研究所所長）・砂川睦紀（指導主事）
- ・與那覇将太（研究員）・渡真利彩（研究員）

プロジェクトの概要とねらい

宮古島市では、これまでも教育研究所の長期研究員の実践研究について、大学教員に関わっていただきながら研究員の学びを支える取組を行っている。本プロジェクトを通して、大学教員の来島回数を増やし、1年間を通して研究員と共に伴走しながら学びの場を拡充することで、実践研究のさらなる充実を図ることを目的とする。

研修の概要（スケジュール）

月日	実施内容
8月21日（月）	「事前研究協議会」 大学教員(津田先生、永田先生)に来島して頂き、 研究員と研究の方向性について検討。
9月25日（月）	「研究授業（中学校英語科）」宮古島市立鏡原中学校 ・授業観察及び指導助言（津田先生）
12月7日（木）	「研究授業（小学校国語科）」宮古島市立久松小学校 ・授業観察及び指導助言（永田先生）
1月15日（月）	「研究授業（中学校英語科）」宮古島市立鏡原中学校 ・授業観察及び指導助言（津田先生）
1月31日（水）	「研究授業（中学校英語科）」宮古島市立鏡原中学校 ・授業観察及び指導助言（津田先生）
2月13日（火）	「公開授業・研究報告会」小学校国語科 ・指導助言（永田先生）
2月20日（火）	「公開授業・研究報告会」中学校英語科 ・指導助言（津田先生）

2.2.3. 宮古島市立教育研究所の長期研究員に対する指導講師派遣事業

研究員の感想

・今回のプロジェクトでは、授業づくりの段階から単元計画にアドバイスを頂いたり、定期的に授業参観及びフィードバックを頂いたことで、実践において多大なサポートを得ることができ、とてもありがたかったです。津田先生の支えがあり、キンザー小学校との交流も実現できて生徒達にとっても素晴らしい機会を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

・単元構想や授業計画について多くの助言を頂き、とても勉強になりました。授業フィードバックでは、問いの立て方や指示のあり方、ワークシートの構成などについて具体的なアドバイスを頂き、より実践的な学びを得ることができました。

プロジェクトの成果

・大学の先生方の来島回数が増え、直接授業を参観して頂き、フィードバックをもらえることで、より実践的な学びに繋がった。単元計画や授業づくりについて、顔を合わせながら検討することができて有意義な研究ができた。

プロジェクトの課題

・来島の回数が増えることで離島の課題に対応できるので、ぜひ今後とも継続していただくとありがたいです。

事前研究協議会**授業観察・指導助言等**